

あとがき

本年度は、「やまなしの教育基本計画」に基づく教育改革推進の初年度となりました。その中であげられた「5つの重点施策」のうち「確かな学力と伝え合う力を育てる国語力の向上」「豊かな人間性や社会性を培う心の教育の充実」「たくましいからだをつくる体育・健康教育の充実」は、特に学校教育において中心課題であり、各校において特色ある具体的な取り組みが始まりました。

一方、国レベルにおいても義務教育の構造改革を進めるため、10月には中央教育審議会が答申をとりまとめました。この中では、義務教育の目標の明確化や教育内容の改善がうち出され、また、「教師の質の向上」についても改革の大きな柱として位置づけられました。このことは、「学校の教育力、すなわち『学校力』を強化し、『教師力』を強化し、それを通して、子どもたちの『人間力』を豊かに育てることが改革の目標である。」という一文に集約されていると言えます。さらには、12月「特別支援教育を推進するための制度の在り方(答申)」が出され、障害の有無にかかわらず、すべての幼児児童生徒の教育的ニーズに答えていく方向性が示されました。

これらのことをふまえ、そして、これまでの時代においても不易のことであった「教師は授業が命」の言葉が示すとおり、子ども一人ひとりに目を向けた「分かる授業の展開」をさらに工夫し実践していかなければなりません。学校現場では、国語力の向上、個に応じたきめ細かな指導、指導と評価の一体化、心に元気を育む道徳教育の実践、より充実した総合的な学習の時間、等々をいかに具現化していくか、各学校の実態に応じた実践を積み重ねています。また、その中心的な役割を担う校内研修のもち方についても様々な工夫が見られるようになってきました。例えば、ワークショップ型の研修で、「子どもたちに学びの実感があったか」「明日の授業にどう生かすか」などについて、活発に共同的に意見交換がなされています。

学校教育にますます期待がかかる今日、「生きる力」の育成と様々な課題解決に向けて、教師一人ひとりの資質向上はもとより、全教職員が一丸となり創意工夫を重ねて教育活動の充実を目指していきたいと思えます。

終わりにになりましたが「東山梨教育研究第44号」の発刊にあたり、お忙しい折に玉稿を賜りました東山梨地区教育委員会連合会長様、並びに東山梨教育協議会長様をはじめ、貴重な原稿を寄せられた諸先生方、各市教育委員会の財政面でのご援助に対し心より感謝申し上げます。

なお、東山梨教育研究第35号(平成8年度)から第44号(平成17年度)までの本冊子の表紙及び本文中のカットは松里小学校 泉 薫先生にお願いしました。ご協力ありがとうございました。

【編集委員】

東山梨地教委連教育長部会長
峡東教育事務所副所長
峡東教育事務所指導主事
東山梨教育協議会事務局長
東山梨教育研究推進委員長
東山梨支会研究推進委員長
牧丘・三富支会研究推進委員長
塩山支会研究推進委員長
勝沼・大和支会研究推進委員長

堀内 邦満
保坂 一仁
泉 久功
竹川 和彦
久保田 英樹
飯島 裕明
中村 弘和
小林 誠治
加藤 紀子

発行日	平成18年4月4日
発行責任者	東山梨教育研究編集 実行委員会
編集責任者	東山梨教育研究編集 実行委員会事務局
印刷所	山梨市 毎日印刷

